

知里幸恵編訳著 『アイヌ神謡集』
(岩波文庫、540円)



三浦 佑之

古代文学研究者、
立正大教授

1922年、若いアイヌの女性が逝った。わずか19歳。遺されたのは、先祖から受け継いだ神謡（カムイユカル）13編にきれいな日本語訳を添えた小さな本だった。その「序」の冒頭には、「その昔この広い北海道は、私たちの先祖の自由の天地でありました」と書かれていた。残念ながら、過去形で語るしかない時代だった。しかし神謡のなかには、彼女が夢見た先祖たちの満ち足りた暮らしが詰まっております。そこで人々は（アイヌは「人」の意）、自然を敬い恐れながら、フクロウともウサギともカエルとも、互いを認め合い慎み深く暮らしている。



テーマ書評 「節」